

愛媛大学社会連携推進機構研究協力会 平成30年度事業報告

○研究協力会関係

開催年月日	事業内容
H30.7.19	<p>1. 平成30年度社会連携推進機構研究協力会理事会・総会を開催</p> <p><理事会の様子></p>  <p><総会の様子></p>  <p><特別講演会の様子></p> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>「愛媛における観光サービス人材リカレントプログラムの展開」 講師：愛媛大学地域創成研究センター・法文学部 教授 和田 寿博</p> </div>  

H30. 7. 19

< 特別講演会の様子 >

「研究協力会研究部会の紹介」

講師：
IoT 利用技術検討部会 代表 小林 真也
（愛媛大学大学院理工学研究科 教授）
食品栄養・機能性研究部会 代表 岸田 太郎
（愛媛大学大学院農学研究科 教授）
水環境再生技術研究部会 代表 治多 伸介
（愛媛大学大学院農学研究科 教授）



2. 研究協力会研究部会（別紙1）の活動報告

○IoT利用技術検討部会

H30. 4. 1

～H31. 3. 31

- (1) 7月25日16日に開催されたえひめITフェア「ICTトレンドセミナー」に出展し、IoTOTOプロジェクトで取り組んでいる水産ICTや、宇和島市における実課題を取り上げたPBLとその成果物など、地域情報化推進の成果紹介を行った。
- (2) 水産業を支援するICTの応用を推進するIoTOTOプロジェクトを、地域水産業関係者や愛媛県と連携しながら、引き続き推進する。
- (3) 愛媛県内にある事業所からの依頼に基づき、ICTを活用した課題解決型共同研究を実施した（2件）。
- (4) 愛媛県内の事業所の見学から得られた課題を取り上げた提案により、総務省の5G利活用アイデアコンテストにおいて総務大臣賞を獲得した。

○組込みシステム・人工知能・言語処理検討部会

研究部会を5回開催

第1回：平成30年 5月21日（月）

第2回：平成30年 6月25日（月）

第3回：平成30年 8月 9日（木）

第4回：平成30年11月 2日（金）

第5回：平成31年 2月12日（火）

講演会：

「地域産業のスマート化に関する取り組み
— 伝統的な杜氏の知見を引き継ぐスマート酒蔵 —」

平成30年10月26日（金）

H30.4.1

～H31.3.31

○アーバンデザイン研究部会 研究部会を30回開催



松山アーバンデザインスクール開催の様子 夕焼けベンチ in 宝厳寺 の様子

○福祉ロボティクス研究部会 研究部会を2回開催

第1回：平成30年12月11日（火）

第2回：平成31年1月9日（水）

○地域の問題を解決するロボティクス研究部会 研究部会を6回開催

第1回：平成30年5月29日（火）

第2回：平成30年7月20日（金）

第3回：平成30年9月27日（木）

第4回：平成30年11月26日（月）

第5回：平成31年1月30日（水）

第6回：平成31年2月27日（水）



部会の様子

○廃炉措置研究部会

以下4つのテーマについて情報交換を行った。

- (1) 「効率的・効果的な除染技術の開発」
- (2) 「除染時に発生する廃液の効率的な放射能低減技術の開発」
- (3) 「高圧ジェット水に対応する防護服の開発」
- (4) 「セルロースナノファイバーによる軽くて強い防護具の開発」



部会の様子

○スマート農業研究部会

(1) 平成31年1月30日(水)実施

「愛媛大学植物工場人材育成プログラム 先端技術セミナー
ICT/IoT/AI 世代の植物工場技術:実装可能な生体情報計測とモデル化」

(2) 平成31年1月31日(木)実施

「愛媛大学植物工場人材育成プログラム Dコース
植物工場の経営者育成②」



「愛媛大学植物工場育成プログラム 先端技術セミナー」の様子

3. 地元企業技術相談

平成30年度技術相談件数：131件

(内訳)

大企業：32件

中小企業：66件

小規模：18件

その他：15件

H30.4.1

～H31.3.31



地元企業技術相談の様子

H30.9.10

4. ものづくり基盤技術担い手育成研修 (IoT入門コース)

参加者：9名



H30.8.21

5. えひめ5:30倶楽部

第1回：参加者 106名（担当：愛媛大学）



えひめ5:30倶楽部の様子

6. 社会連携推進機構メールマガジン発行

各種イベントの案内等

7. その他社会連携イベントへの支援

H30.8.2

(1) 社会連携フォーラム2018（愛媛大学南加記念ホール）

特別講演「人生100年時代におけるリカレント教育への期待」

講師：文部科学省高等教育局専門教育課 課長補佐 中湖 博則 氏



特別講演会の様子



パネルディスカッションの様子

H30.8.21

(2) 平成30年度 愛媛大学・愛媛県研究員分野別交流会
（愛媛大学総合情報メディアセンターメディアホール）



愛媛大学事例紹介の様子



県内企業事例紹介の様子

	研究部会名と活動内容	部会代表者
1	<p>IoT利用技術検討部会</p> <p>ICTの進化等により社会が大きく変化していることや政府による「Society5.0」を中心とした科学技術政策が策定されたことを鑑み、現在活動中の「地域情報化研究部会」の活動範囲を広げ、名称を「IoT利用技術検討部会」と改める。</p>	<p>大学院理工学研究科 教授 小林 真也</p>
2	<p>組込システム・人工知能・言語処理検討部会</p> <p>自動運転車が現実世界の技術になろうとしているが、その根幹である画像処理等を含む人工知能の発展が著しい。地域産業の高度化に深く関わる分野であり、現在活動中の「四国組込ソフトウェア研究部会」の名称を変更して、新たに先端的情報工学領域へと活動を拡大する。</p>	<p>大学院理工学研究科 教授 高橋 寛</p>
3	<p>アーバンデザイン研究部会</p> <p>松山のまちづくりを考える勉強会や、シンポジウム・フォーラム等を開催し、松山をどのようにデザインしていくべきか等、具体構想等の研究・提案・実施をしている。活動も活発であり、その重要性から、部会を継続する。まちづくりや都市デザインを考える上で重要になる建築系のテーマについても検討する。</p>	<p>防災情報研究センター 講師 尾崎 信</p>
4	<p>食品栄養・機能性研究部会</p> <p>「特定保健用食品（トクホ）」や「機能性表示食品」制度が始まって以来、食品の機能性についての調査や研究の受容性は高まっている。企業の商品開発を活性化させるため、本部会を継続する。</p>	<p>大学院農学研究科 応用生命科学 教授 岸田 太郎</p>
5	<p>福祉ロボティクス研究部会</p> <p>進行する高齢社会において、人間をサポートする福祉機械の需要が高まっている。人間の様々な行動を補助する知的な機械を地元企業や自治体の研究所と協調して研究開発を行い、高齢者のQOLの維持・向上を図る。</p>	<p>大学院理工学研究科 教授 柴田 諭</p>
6	<p>地域の問題を解決するロボティクス研究部会</p> <p>愛媛県が抱える様々な課題を、ロボット・制御技術で解決することを目指す。地元企業や自治体などと協力し、課題の抽出、解決法の提案、試作などを行っていく。例えば、農林水産業のロボット化、高齢者の生活支援や産業現場の自動化などが想定される。</p>	<p>社会共創学部 産業イノベーション学科 准教授 山本 智規</p>

7	<p>再生可能エネルギー利用研究部会</p> <p>エネルギー資源の乏しい日本にとって、太陽光、風力、水力、地熱、バイオマスなどの再生可能エネルギーをどのように組み合わせて利用するのは重要な研究テーマである。</p> <p>本部会では、愛媛型エネルギーの「地産・地消型」のスマートシティを作ることを最終目的として、再生可能エネルギーの効果的な利用法を提案し、グリーンイノベーションの実現する技術開発を通じて、新しいエネルギー社会への貢献を目指す。</p>	<p>大学院理工学研究科 水圏環境工学 教授 森脇 亮</p>
8	<p>廃炉措置研究部会</p> <p>伊方発電所1号機の廃止措置に備え、廃炉装置研究に関わる検討会が県内で実施されている。本部会では、原子力発電所の廃止措置技術に係る課題や問題点を抽出し、その課題を解決するために必要となる技術シーズの発掘や廃止措置に向けた研究開発を行う。また、これらの研究開発から生まれた新たな技術・研究シーズの活用法について検討していく。</p>	<p>社会連携推進機構 産学連携推進センター センター長 野村 信福</p>
9	<p>水環境再生技術研究部会</p> <p>河川水、地下水、湖沼水などの水質汚染状況を改善する技術や、一度利用した水（排水）を浄化して再利用する技術、更には、排水や下水汚泥から有用資源（リンなどの肥料源など）を回収して農業などに再利用する技術といった水環境再生技術は、社会の持続的発展のために強く求められている。本研究部会では、これらの技術に関する研究会を実施し、愛媛県はもとより、海外（主に発展途上国）に展開できる新規技術の提案や共同研究の推進に寄与することを目指す。</p>	<p>大学院農学研究科 水環境再生科学 教授 治多 伸介</p>
10	<p>スマート農業研究部会</p> <p>国際競争力のある農業生産システムの確立は喫緊の課題であり、特に、わが国が誇るセンサ・ICT・IoT・AI等の先端情報化技術を活用した生産システムの研究開発はその基盤となる。植物工場から露地生産、アクアポニックス、家庭内水耕栽培キットに至る多様な植物生産形態に最適化された情報化技術を提案するなかで、地域においても競争力のある農作物生産を実現する。</p>	<p>大学院農学研究科 植物工場システム学 教授 高山弘太郎</p>